

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800117		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム 静内さくら館 2		
所在地	日高郡新ひだか町静内駒場5番40号		
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果市町村受理日	平成 28 年12月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0193800117-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を望む立地に建てられており、太陽が海に沈む景色がとても綺麗で、鮮やかな夕焼けが水平線に染み込むように暮れて行きます。
ホームの裏は災害(津波時)の避難場所(高台)に整備され、地域との連携した防災体制が構築され、自治会の方が参加しての避難訓練を行なっています。
暖かい時期は花壇やプランターに花を植え、水やりや手入れに勤しみ、ビニールハウスでぶどうや野菜を育てて、収穫を楽しんでいます。
地域の皆様の協力により、安心して住み良い生活の場となり、入居者様一人ひとりが笑顔で、思うように暮らしているように感じます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員にも考えてもらい、理念作成にあたり、提案や意見を出してもらい決めました。研修会やミーティングで再確認をしながら、共有し実践に活かしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に参加を呼びかけ、管理者や職員が自治会の清掃・レクなどの活動に参加し、交流に努めています。現在実施している認知症カフェには地域の方や公民館のサークルにも呼びかけ、交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの職員が救命講習を申込み際に自治会の方にも参加して頂けるよう案内を出し、希望があれば一緒に受講できるようにしています。H27.9月より町が推進している認知症カフェを実施したり、年に一度のさくら館まつりで地域の方と一緒に楽しんでいただくことで認知症の理解に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政、自治会、ご家族、社協、ホーム職員が参加し、生活状況の報告や話し合いを行なっています。質問や意見、要望など検討しサービス向上に取り組んでおります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組みや事業所の実情では困難な事例を相談してアドバイスを頂くことがあります。日頃から連絡を密にし、部屋が空いた際や緊急に対応が必要なケースなど、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止委員を決め、会議に参加し、各ホームで会議内容や活動報告を行ない、全職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。ホームでは事例を用いた研修会を行ない具体的などのような行為が禁止の対象になるのかを学んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待防止委員を決め、会議に参加し、各ホームで会議内容や活動報告と研修会を行ない、全職員に周知し、虐待防止に努めています。施設内の研修を月1回実施し、その中で虐待についての研修も行ない職員の意識を高めています。		

グループホーム 静内さくら館 2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見人制度について、全職員が学ぶ機会(ミーティング)を作っており、必要な入居者には活用出来る様に説明し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際に疑問点については全て説明し、本人・家族の要望も尋ねて出来ること・出来ないことを明確にし、納得して頂いています。解約する際にも十分な説明を行ない、「これからも協力出来ることがあれば相談して下さい」と伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には意見や要望等伺っています。契約前に苦情窓口連絡先を記載した書面を説明の上で渡しています。又認知症カフェを実施し家族にも参加していただき意見を出しやすい環境作りに勤めています。家族に運営推進会議議事録、さくら館便りを送付し、運営の状況や入居者の状況を詳細に報告し、意思の疎通に努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、全職員で話し合いを持っています。意見・提案書を準備し、職員の意見をくみ上げて検討し、反映させています。ミーティングや研修を実施し、職員が意見を出しやすい環境作りに努め職員の意見を反映させています。かねてより申請していた洗面台の移動については工事が遅れてはいるものの設置予定です。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員個々の努力や実績に対して適切な評価をし、職員の待遇や給与待遇の見直しを行なっています。勤務状況の大変さを理解し、常に職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの中でプチ研修を実施、別ユニットでの職員の対応や取り組みを参考に自らを振り返ってもらったり、会社が行なう研修に全職員参加したり、外部研修に参加するなど育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者が開催する勉強会へ管理者や職員が参加しています。行政のケア会議に参加し同業者との交流する機会を持ち質の向上に取り組める様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談で情報収集し、趣味、不安な点などを聞き、慣れない場所の生活に配慮、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族も一緒に面談し、ご家族の要望など聞き取り、可能な限り対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族がほとんど支援出来ない。働きに出ているため、火の心配、食事の心配、入浴、身の回りの心配があげられています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分が出来る事を職員が見極め、食事の準備、食器洗い、洗濯物たたみ等、協力し合い生活をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回のお便りにて近況報告したり、電話での相談などもさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた床屋や馴染みのある商店へ継続して通えるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係が良好に過ごせるよう職員は常に中立な立場を保ち、個々の表情を観察しながら孤立することなく過ごせるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても「お役に立てる事が有りましたら、いつでも相談して下さい」と伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	応じられる範囲で一人ひとりの思いや暮らし方の希望を尊重しています。朝が苦手な方に対して朝食時間を遅らせる、夜眠れない方には温かい飲み物を提供するなど対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から生活歴や暮らし方、生活環境など情報収集し、把握に努め、入居後も会話の中で情報収集し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりで気付いた事を生活記録や申し送りで伝えることにより職員全員が現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりの中で気付いた事をカンファレンスで意見、提案し、話し合いを持っています。必要であればその都度、家族とも話し合いをし、現状に即した介護計画を作成するよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録の中に日々の様子や気づき、工夫したケアの実践、結果を記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や散髪、外出など対応可能な要望に対して既存のサービスに捉われず柔軟な対応に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮しながら、地区の敬老会に参加したり、町が主催するお祭り山車をホーム前で見物したりと、暮らしの中に楽しみを取り入れています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もご本人や家族の意向を尊重し、希望する病院を継続して受診でき、適切な医療が受けられる支援をしています。受診が難しい入居者様が往診で診てもらえる体制もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを職場看護師やかかりつけ医に相談し、適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ必要な情報提供を行ない、入院中は早期に退院できるようホームが受け入れ可能状態などを伝え病院関係者との情報交換や状態を確認するなど相談を重ね関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応方針について説明し、本人や家族の意向を確認し、同意書を頂いています。入居中に重度化しつつある段階で、かかりつけ医、家族と話し合いを行ない、ホームで対応できる事を十分に説明し方針を共有、再度家族の意向を確認し、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が定期的に普通救命講習を受け、応急手当や初期対応の訓練をし、実践力を身に付けています。急変時に慌てないよう対応マニュアルを掲示し備えてあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年自治会と連携にて協力し、避難訓練、避難経路の草刈り等も共同にて行ない、協力体制を築き、災害時に備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を配慮し、特にトイレ誘導時の声掛け、排泄の失敗は、他の方に気づかれない様心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の話を否定せず傾聴し、自己決定出来るよう確認した上で支援するよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から職員の都合用務を優先するのではなく入居者様のペースを要望に取り入れた過ごされ方に心掛けて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好みの服を選んで頂き、髪染め、髭剃りなど身だしなみを整え、お洒落が出来るよう支援しています。		

グループホーム 静内さくら館 2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの把握を全職員が共有し、盛り付け、彩りなど工夫しながら提供するよう心掛けています。利用者様は自分の役割りとして、準備、片付けなど手伝って下さっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量の把握に努め、不足の際には好む食物、飲み物を提供、すすめたり時間をあけて再度声掛けしたりするよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けて促し、介助の必要な方は誘導し、声掛けしながら口腔ケアを行ない、清潔保持出来るよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方には声掛け促し、誘導の必要な方には全職員が時間を把握、誘導し、失敗のないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く使い、バランスを考え調理提供。牛乳、乳製品なども摂取して頂くなど努めている。腹部マッサージも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を確認した上で個々の希望する時間、順番、定期的に入浴できるよう支援しています。時折り公共施設(温泉)も利用したりしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ、昼寝をする方、夜間眠れない方には、温かい飲み物を提供する、又は日中の活動量を増やすなど工夫しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の説明書を定期的に差し替え、目的や副作用、用法や用量について確認できるようになってます。また、薬剤師管理のもと、安全な体制ができております。服薬の支援と症状の変化の確認に努め、すぐ相談できる体制になってます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした出来る事を役割りとしてお手伝いして下さっています。(食器洗い、拭き、米とぎ、タオル、洗濯物たたみ等)買い物やオセロ、カラオケなど楽しめる方もおります。		

グループホーム 静内さくら館 2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	対応可能な範囲で本人の希望で買い物や床屋、時には日程を調節して温泉へ出掛けたりしています。本人と家族でお話しお出掛けすることもあります。		
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで預からせて頂いている方と、自己管理が可能な方はご自身でお小遣い程度所持している方がおります。お買い物の際には、ご自身で払って頂くなど職員が見守り対応出来るよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望時には出来るだけすぐ対応出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感が感じられるよう装飾を考え、利用者にとって不快にならぬよう伺いながら窓の開閉、テレビの音量など調節しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でテレビを観たり、お話されたり、リビングソファで横になられたり自由に過ごせる空間になっていると思います。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みの物や昔からの使い慣れた物など、ご家族、ご本人と相談しながら居心地良く過ごせる工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前をつけさせて頂き、自分の居室がわかるようにしています。トイレの場所がわからないなど、その方に合わせ表示させて頂いています。		